

事業実績書

1 事業名 イタリア野菜でガッツリ儲かる農業の推進プロジェクト

2 実施期間 令和6年4月15日～令和7年3月31日

3 事業内容

(1) 事業の目的・概要

輸入品が多く高単価が期待できるイタリア野菜の産地化のため、栽培技術体系の確立体系（つくること）、マーケティング（売るしくみづくり）、生産体制の強化を行う。これにより新たな特産品の創出、農業者の所得向上、地域の活性化を目指す。

(2) 事業の流れ、実施事項

1) 栽培技術体系の確立

日本での栽培ノウハウが十分確立されていないイタリア野菜の産地化を目指すため、栽培技術体系の確立に向け、12品目の栽培実証と視察調査等を行った。

① 栽培実証

○イタリアトマト等夏野菜の栽培実証

- ・料理店から要望の高いイタリアトマトの栽培技術確立のため、農業者と協力し5カ所で栽培実証を行った。有望品種の選定と収穫期間の拡大（1.5カ月→3.5カ月）、収量向上等一定の成果を得ることができた。
- ・イタリア丸ナス（ビステッカ・スパリオーレ）では、土壌病害や収量面で課題が残されたが、料理店や一般消費者に好評で、普及可能な品目と考えられた。

○秋冬野菜の栽培実証

- ・10品目、10カ所で栽培実証（内ハウス栽培4カ所）を行った。
- ・育苗～定植時期（8～9月）の酷暑により生育遅延、障害が発生し、栽培の難しい年であった。特にプレコーチェ、プンタレッラ、ルッコラは、病虫害や生理障害の発生が見られ、栽培の改善が必要である。
- ・フェンネル、カリーノケールは市場で一定の評価を得られた。しかし、収益性を考えると収量、秀品率の向上が望まれる。

表1 品目名と実証結果

品目名	実証成果、課題
フェンネル	露地栽培とハウス栽培の組み合わせにより、11月～3月の長期間収穫する作型を概ね確立できた。しかし、高温期の育苗が難しいこと、品質の個体差が大きいこと等が課題。露地栽培は、収穫適期が2週間と非常に短かった。収量は175kg/a。

カーヴォロネーロ	露地栽培で11月～3月中旬まで連続収穫が可能。2月は品質がやや低下。収量は58kg/a。
カリーノケール	ハウス栽培では11～3月の5カ月間連続出荷が可能。露地栽培では1月中旬～2月は品質低下。収量は露地栽培で40kg/a、ハウス栽培で130kg/a。
チーマディラーパ (西洋菜花)	日本の菜花に比べ、暑さに強く収量性も高いが、ボリュームが劣るので収穫調整が煩雑。料理店からの人気は高い。生産者からの評価も高いので次年度は市場出荷を計画。
カタローニャ	栽培は容易だが、降霜に弱く、露地栽培での収穫期間は10月末～11月中旬と短い。ハウス栽培では、長期間(11～2月)の収穫可能だが、葉先枯れやアブラムシ等の虫害被害が多い。販売先は限定的。
プレコーチェ	ハウス栽培で実証。病気と生育不良株が多発(20%程度廃棄)。本年度は定植時期(9月中～下旬)に高温障害を受け、ボリューム不足となった(1株重150g)。
プンタレッタ	生理障害や病虫害が発生。品質のムラが激しいなど栽培技術の課題は多い。収穫は2月上旬～3月上旬
ルッコラ	9～10月の高温により、出蕾が激発し、収量減となった。収穫時期は11～1月上旬、2月下～4月予定。料理店からの引合いが多く、高単価が期待。
ダルディーボ	9～10月の高温により、生育悪化。軟化处理・収穫は12月の予定が3月に持ち越し
ハーブ類	6種類のハーブ苗を育苗中。

② 先進地、種苗会社への視察調査

(ア)かほくイタリア野菜研究会視察

○時期、場所

- ・時期・・・令和6年11月20日
- ・場所・・・山形県河北町 産業振興センター交流室、生産者のほ場3カ所

○調査結果

- ・産地の概要・・・2011年栽培開始で現在は60品目で約3千万円の売り上げ。リーダーを中心に年間生産計画を立て、数年かけて作成した栽培出荷マニュアルに基づいて生産を行っている。
- ・出荷, 販売方法・・・「株式会社かほくらし社」(河北町内外の企業や団体で設立した地域商社)。市場は通さず、首都圏中心に仲卸業者へ直接販売、輸送は業者手配の収集トラック。
- ・受発注方法
“毎週生産者から出荷可能な品目と量の報告” → “販売先にメール等

で販売野菜一覧表を流し、月曜日にメール等で受注” → “受注分を生産者に振り分け” → “週1回水曜日、段ボールに詰めてトラック出荷”

- ・農場視察・・・高級品で料理店から要望の高いタルティーボの栽培畑および軟化処理施設を中心に調査し、カーヴォロネーロ、ルッコラ、プレコーチェ、カリフローレなどの栽培状況も確認した。
- ・視察で得られたこと・・・活発な組織活動、独特的で合理的な出荷販売体制等、これから産地化を進める上でおおいに参考になった。また、ニッチ品目に取り組む際の大変さ、組織活動、販売体制の重要性を改めて痛感した。さらに、夜には生産者や「かほくらし社」職員との交流の場もあり、士気の高さ、熱意に刺激を受けた。

(イ) トキタ種苗大根研究農場視察

○時期、場所

- ・時期・・・令和6年11月19日
- ・場所・・・埼玉県加須市

○調査結果

- ・生育状況（見事な出来）・・・夏～初秋の酷暑にもかかわらず、素晴らしい出来。今年のような気象でも、品質の高い野菜を生産できることがわかった。コスト面などで実用的には困難な対策もあろうが、参考にしていきたい。
- ・新たに導入したい品目・・・スティッキオ、サラダカブ等、カリフローレ。一般消費者向けに魅力がありそうなので次年度導入したい。
- ・晩生種の西洋菜花について・・・西洋菜花は料理店から注文が多く、現在は早生種のみで対応しているが、ボリュームが劣り、寒さにも弱い。それを改善した晩生種が開発され、試供品の種子提供も受けたので、ぜひ来年度導入したい。矢掛町は菜花の産地ではあるが、衰退傾向であり、この西洋菜花も取り入れ、産地活性化を図りたい。
- ・得られたこと・・・他で栽培を見る機会の少ないイタリア野菜の生育状況や様々な品目、品種を実際に見て確認でき、今後の栽培指導するうえで大変参考になった。また、品種の開発状況、他県の生産情報なども収集できた。

2) マーケティング

① 全国料理店や輸入業者への直販強化

- ・PR資料及びレシピ等を作成、配布・・・料理店20店舗以上、輸入業者2業者、さらには一般消費者へ配布した。
- ・宅配による直販・・・15品目の野菜を16店舗、27人に直販できた。

② 首都圏市場への販路開拓

- ・市場調査・・・11/21 東京豊洲市場に出向き、イタリア野菜の流通状況やリーキに続く新たな出荷品目について提案、協議を行った。
- ・フェネルの出荷開始・・・既に首都圏市場でブランド化されているリーキに続き、新たな特産品として出荷。計4回 36kgの出荷実績。

③ 地元販売の取り組み

- ・地元市場への販路開拓・・・岡山、倉敷市場にカーノーケール（出荷実績 11～2月、145kg、16.5万円）、カーヴォロネーロを出荷した

- ・町内 JA 直売所で販売・・・イタリア野菜コーナーを設置し販売。
- ・地元ホテルへの直販・・・8/2、県内ホテルへ出向きプロモーションと野菜サンプル提供、その後の受注につなげた。
- ・学校給食・・・給食センターと連携し、1月28日、学校給食にカーヴォロネーロ 15kg、プレコーチェ 5kg、リーキ 9kg 使用。当日は町長、JA が出席し取り組みを説明。

④ PR 活動

- ・イタリア共和国建国記念日祝賀会・・・R6.6/5、イタリア大使館（東京都）で、イタリア共和国建国記念日祝賀会が開催され、矢掛町イタリア野菜をピンサの具材として来賓者に提供、PR を実施した。
- ・「みのりみのるマルシェ」・・・R6.7/2、大阪駅で開催、一般消費者へ矢掛産イタリア夏野菜（イタリアトマト、ナス等）の販売・PR、アンケート調査を行った。
- ・「おかやま矢掛マルシェ in 新宿高島屋」・・・R7.1/18～19、一般消費者へ矢掛産イタリア冬野菜（カーヴォロネーロ、フェネル、カリーノケール、チーマディラーパ、リーキ）を販売。試食品（カーヴォロネーロのチップス）も提供し PR を行った。
- ・『おかやま備中マルシェ 2024』とっとりおかやま新橋館・・・R6.10月、2階ビストロカフェで、矢掛町産のイタリアトマトとイタリアナスを使用した『イタリアトマトとナスのガーリックパスタ』を期間限定で販売。地域の特産品としての認知度を高めることができた。
- ・イタリア大使館に野菜サンプルを提供・・・R6.8月に夏野菜（トマト・ナス）、R6.12/25 冬野菜（フェネル等）を送付。

3)生産体制の強化

①「矢掛テーブルクロス」の開催

- ・2/23、JA 矢掛支店で開催。料理人や流通関係者と町民、生産者との体験型交流イベントを開催し、町内でプロジェクトの認知、生産者の意欲向上を図った。
- ・イタリアンマルシェ、シンポジウム（テーマ：イタリア野菜と矢掛町イタリア野菜）、イタリア野菜展示・販売、試食会等を開催、多く来場者に取り組みを知っていただいた。
- ・栽培講習会により、技術講習だけでなく、町内の農業者に事業の取り組み状況を紹介した。

②研修会、講習会の開催

8/16、3/10（予定）、栽培技術の検討、生産計画の検討等も行った。

③新規栽培者の募集

1月に募集チラシを町内農業者へ配布、また、「矢掛町テーブルクロス」でも募集 PR を行った。また、3～4月には実証や視察調査の成果をイタリア野菜研究会に報告するとともに、栽培マニュアルを作成し、高品質安定生産の体制づくりに努める計画。

(3)これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

評価指標	評価方法	目標	実績
実証ほの設置	設置数	6ヶ所	12ヶ所(200%)
プロモーション	プロモーション箇所数	2市場、20店舗	3市場、7店舗(150%、35%)
イベント・研修会等の開催	開催回数	4回	5回(125%)
生産者の意識変容	生産者への意識変容についてのアンケート	「イタリア野菜栽培意欲が高まった」の回答率80%	70% (10人中7人)
栽培や販売の指導力向上	生産者への栽培や販売の指導についてのアンケート	「指導力が向上した」の回答率80%	70% (10人中7人)
有望品目の選定数	実証やマーケティングによる選定	10品目	6品目(60%)
販売先の拡大	直送料理店数	30店舗	18店舗(60%)
地域イベントの参加等PR活動	メディア等での広報	4回	5回(125%)

(4)今後の課題・展開等

①需要・販売と生産管理の相互調整

一定の生産販売のスタートが切れたが、今後は買い手のニーズからの生産管理や需要量に見合った生産計画、逆に生産や新品目開発から販路開拓等、需要・販売と生産管理の相互調整に努める必要があります。

②生産安定

出荷期間の長期化、安定生産を目指すには、ハウス栽培やトンネル栽培の導入を進めることが必要と考えています。

③合理的な集荷・販売体制の構築

多品目であるため販売、集荷が煩雑なうえ、マイナー品目であるため売れ残りロス危険がある。そのため、市場出荷の比率拡大、ネット販売への取り組み等を進めていく。また、直販における受注、集荷、箱詰作業などの効率化に取り組めます。

④生産体制の強化

発展を続けるには、自発的、前向きに活動する生産者組織の育成が重要、このための支援や新規栽培者の確保を積極的に行うことが必要。

(5)県民局との連携による効果

①PR活動の強化

県が関わるイベント、マスメディアの活用を積極的に行い県内外に効果的にPRが出来た。

②技術確立、指導の強化

この事業採択により、普及指導センターから実証活動、病虫害対策、情報収集等の支援を受け、技術確立に向けた取り組みを効果的に行うことが出来た。

③客観的な視点

農畜産物生産課や事業審査会、中間報告会での審査委員の方々から第三者的視点的なアドバイスにより、客観的な見直しができ、より効率的効果的に取り組むことが出来た

4 参考事項・資料

写真

イタリア野菜プロジェクト(令和6年度備中地域みらいづくり支援事業)

栽培技術の確立

栽培実証…夏野菜



トマト(簡易雨除け)栽培とナス (ビ' ステッカス リオーロ)



トマト「ソバージュ栽培」



「サンマルツアーノ・リゼルバ」



「ボンジョールノ」

栽培実証・・・秋冬野菜



秋冬野菜の育苗状況 (JA)



カーボロネロ



フェンネル (露地栽培)



フェンネル (ハウス栽培)



カリノーケール



プレコーチェ



ルッコラ・セルパティカ



プンタレッラ



ダルディーゴ

かほくイタリア野菜研究会(山形県河北町)



産地説明のプレゼン
(河北町産業振興センター交流室)



カーボロネロのほ場



出荷場前での説明



ハウス (サボイ、フェンネル)



出荷箱の中身



直売所の様子



ダルディーボの株養成



ダルディーボの軟化施設

トキタ種苗大和根研究農場(埼玉県加須市)視察



農場視察の様子



カリフローレ



ロマフローレ



フェネル



ルシア



ダルディーボ

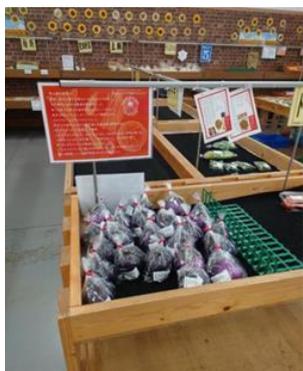


コールラビ

マーケティングの強化・・・ 直販、地産地消



宅配による料理店等への直販



地元JA直売所での販売



学校給食用野菜



学校給食用野菜

マーケティングの強化… 市場出

【東京豊洲市】



豊洲市場へプロモーション



豊洲市場の様子



豊洲市場へフェンネル初出荷

【県内市場】



イベント、PR活動

【「みのりみのるマルシェ」 7/27JR大阪駅アトリウム広場】



【新宿高島屋】





イタリア共和国建国記念祝賀会で“ピンサ”とコラボ



岡山県農業女子 (7/21)



県議会農林水産委員会県内調査8/8



東京岡山県人会

イタリア共和国建国記念祝賀会で“ピンサ”とコラボ

PR活動



左：ベネデッティ大使
右：カバンネリ ジョヴァンニ氏



京都新聞で掲載（県大阪事務所の紹介）

岡山・矢掛産 イタリア野菜

岡山県西部に位置する矢掛町で栽培が増えている、国内では珍しい「イタリア野菜」の詰め合わせ（約2・5kg）を、県大阪事務所から抽選で3人にプレゼントします。

野菜や果物の栽培に適した温暖な気候の矢掛町は、江戸時代は宿場町として栄えました。近年は民家再生などで当時の街並みを取り戻し、町全体をホテルとして見立て旅人を温かく迎える「アルベルゴ・ティフゾン・タウン」として日本で初めて認定された情緒あふれる町です。

2021年の東京オリンピック・パラリンピックでは、イタリアチームのホストタウンとして、合宿中の選手団に西洋野菜を提供。この縁を生かすため、農業者と行政、農協が一丸となってイタリア野菜で地域活性化を目指す「矢掛町イタリア野菜プロジェクト」を立ち上げました。

プレゼントは、今が旬のフェネル（ウイキョウ）、リーキ（ポロネギ）、カワオロ・ネロ（黒キャベツ）、西洋ナバナ、ラディッキオ（チコリー）の一種、カリノケールを詰め合わせました。普段は食べる機会のないイタリア野菜ですが、レシピも付けておきますので、ご家庭で味わってください。

イタリア野菜詰め合わせのイメージ

岡山県西部に位置する矢掛町で栽培が増えている、国内では珍しい「イタリア野菜」の詰め合わせ（約2・5kg）を、県大阪事務所から抽選で3人にプレゼントします。

野菜や果物の栽培に適した温暖な気候の矢掛町は、江戸時代は宿場町として栄えました。近年は民家再生などで当時の街並みを取り戻し、町全体をホテルとして見立て旅人を温かく迎える「アルベルゴ・ティフゾン・タウン」として日本で初めて認定された情緒あふれる町です。

2021年の東京オリンピック・パラリンピックでは、イタリアチームのホストタウンとして、合宿中の選手団に西洋野菜を提供。この縁を生かすため、農業者と行政、農協が一丸となってイタリア野菜で地域活性化を目指す「矢掛町イタリア野菜プロジェクト」を立ち上げました。

プレゼントは、今が旬のフェネル（ウイキョウ）、リーキ（ポロネギ）、カワオロ・ネロ（黒キャベツ）、西洋ナバナ、ラディッキオ（チコリー）の一種、カリノケールを詰め合わせました。普段は食べる機会のないイタリア野菜ですが、レシピも付けておきますので、ご家庭で味わってください。

イタリア野菜詰め合わせのイメージ



イタリア野菜 18種生産 駐日大使も賛辞

矢掛



フェネルの状態を確かめる高月さん

矢掛町産を口にした駐日イタリア大使は、こう賛辞を贈ったという。「こんなにおいしいイタリア野菜が日本にあるなんて」。

町は売れる野菜を作ろうと、2020年5月から、地元のJA附れの岡山山田産アグリセンターや生産者らと「イタリア野菜プロジェクト」に取り組み、アスパラガスや薬物のカーボロ・ネロなど18種類の生産を手掛け、アピールする。

着目するきっかけは、東京五輪・パラリンピック（21年）で同国チームのホストタウンとなったこと。新型コロナウイルス禍で直接の売場も減り、実質的な売場も減ったものの、ズッキーニやトマトといった前内で育てた野菜の種類計410kgを事前キャンプ地の埼玉県所沢市に届け、選手らに喜ばれた。

プロジェクトは今年で8年目に入る。賞菜に栽培は根付き、販路も広がっており、田所直人センター長（64）は「東京の高級イタリア料理店などから引き合いが増えている」と手応えを話す。

センターには研究会もでき、農家18人が勉強や試行を重ねる。研究会代表で、ハブの一種フェネルなど7種類を育てる高月周次郎さん（74）は「多くの家庭で料理を楽しんでもらえるよう収穫を増やしたい」と力を込める。（入野尚彦）

知名度アップへ2大プロジェクト展開

イタリア野菜 町産野菜の新たな顔に

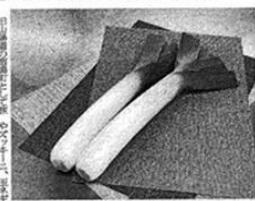
岡山県西部に位置する矢掛町で栽培が増えている、国内では珍しい「イタリア野菜」の詰め合わせ（約2・5kg）を、県大阪事務所から抽選で3人にプレゼントします。

野菜や果物の栽培に適した温暖な気候の矢掛町は、江戸時代は宿場町として栄えました。近年は民家再生などで当時の街並みを取り戻し、町全体をホテルとして見立て旅人を温かく迎える「アルベルゴ・ティフゾン・タウン」として日本で初めて認定された情緒あふれる町です。

2021年の東京オリンピック・パラリンピックでは、イタリアチームのホストタウンとして、合宿中の選手団に西洋野菜を提供。この縁を生かすため、農業者と行政、農協が一丸となってイタリア野菜で地域活性化を目指す「矢掛町イタリア野菜プロジェクト」を立ち上げました。

プレゼントは、今が旬のフェネル（ウイキョウ）、リーキ（ポロネギ）、カワオロ・ネロ（黒キャベツ）、西洋ナバナ、ラディッキオ（チコリー）の一種、カリノケールを詰め合わせました。普段は食べる機会のないイタリア野菜ですが、レシピも付けておきますので、ご家庭で味わってください。

イタリア野菜詰め合わせのイメージ




生産体制の強化



研修会

新規栽培者募集

野菜栽培者募集

矢掛アグリセンターでは、次の野菜栽培者の募集を行っています。
体力や余力のある時期に応じて品目を選ぶことができます。

イタリア野菜 矢掛町で産地化を目指して、昨年より取り組みを開始。

ポイント ●小面積で楽しく! ●全国のイタリア料理店に宅配します



フェンネル



カーヴォロ・ネーロ



ラディッキオ



サンマルツァーノ・
リゼルヴァ

矢掛テーブルクロス 2月23日



ロゴマーク



シンポジュー



実演調理



収穫体験



イタリアンマルシェ



栽培講習会、プロジェクトの紹介